

国際協力・交流関連

環境科学研究科フェロー

本研究科との学術交流を通じ、本研究科の研究および教育に顕著な功績があったと認められる外国人研究者等に対して授与するフェローの称号を設け、平成15年10月1日より施行された。フェロー称号授与基準は、○将来も継続して学術交流を実践する者、○環境科学研究科に所属する前の実績も含め概ね3年以上継続した学術交流実績もつ者、○助教授相当以上の者となっている。これまでに環境科学研究科フェローの称号を授与された外国人研究者等は以下の通りである。

Michael C. Fehler 氏

Group Leader of Geophysics Group,
Los Alamos National Laboratory (LANL),
USA



地震学ならびに地震波による地下計測に関する世界第一線の研究者として著名であり、本務のLANL当該部門長のほか、Bulletin of the Seismological Society of Americaの編集委員長や数々の国際会議の組織委員等を務めている。これまでの本学との密接な研究交流、共同研究を通じ、20数編に及ぶ共著論文を発表し、当該研究ならびに学生の教育に顕著な功績を有している。

Hugh D. Murphy 教授

Petroleum Institute, Abu Dhabi UAE



世界初の高温岩体地熱開発プロジェクトのリーダーとして世界的に著名であり、その後米国Colorado School of Mine教授として地熱開発工学、石油開発工学、環境工学等の教育・研究に携わってきた。その間、当研究科との密接な研究交流を行うとともに、客員研究員として本学に6ヶ月滞在して教育・研究に貢献する等、顕著な功績を有している。さらに、過去3回にわたり本学外部評価委員として来日し、本学の教育・研究に対し助言を行っている。

Philip G. Meredith 教授

University College London, UK



岩石ならびに氷の破壊物理に関する世界第一線の著名な研究者である。特に、複雑き裂システムの破壊物理や温暖化による南極の棚氷破壊に関する新規な研究領域を開拓している。本学との交流に極めて積極的で、客員研究員として本学に1年間滞在するなど教育・研究に多大の貢献をしてきたことに加えて、これまで5名の研究スタッフや数多くの学生を派遣し研究交流を促進させるなど、顕著な功績を有している。

Alfons Georges Buekens 教授

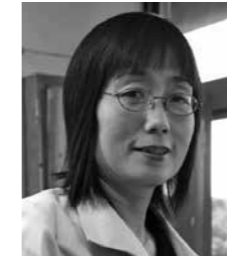
Free University of Brussels, Belgium



化学工学を基盤としてプラスチックの化学リサイクル、PCBsの分解処理、廃棄物焼却や金属原料予備処理プロセスからのダイオキシン類の発生抑制など、物質リサイクルと環境問題に関連する幅広い分野で国際的に活躍している。ベルギーで発生した鶏肉のダイオキシン汚染問題の原因解明と事後処理では重要な役割を果たしている。

金放鳴 教授

同済大学環境科学 及 工程学院、中国



水熱化学反応を利用した有機系廃棄物処理および二酸化炭素の資源化の分野における第一人者であり、当研究科とは深いつながりがある。すなわち1999年に東北大学工学研究科地球工学専攻の博士課程を修了され、その後東北大学で客員研究員、講師、助教授を歴任され、2007年に同済大学教授に就任された。就任時には長江学者特聘教授として迎えられ、同済大学において重要な地位を占められている。その後、環境科学研究科が中国を中心とするアジア各国の大学との交流協定締結や、各種の共同プログラムを開始するに当たり、金先生には特に重要な橋渡しの役を演じていただいている。

国際協定

本研究科では共同研究・教育を進める目的で、コロラド鉱山大学(米国)、アメリカ合衆国国際教育協会(米国)、国立成功大学(台湾)、ウォータールー大学(カナダ)、チャルマース工科大学(スウェーデン)、東北大学(中国)、オークランド大学(ニュージーランド)、同済大学(中国)、アジア工科大学院(タイ)、バンドン工科大学(インドネシア)と大学間協定を締結している。

部局間協定は現在、韓国生産技術研究院光州研究センター(韓国)、タシケント国立経済大学(ウズベキスタン共和国)、ドイツGGA(応用地球科学研究所)、バンドン工科大学(インドネシア)と締結している。

これらの諸協定に加え、中国清華大学環境科学工程院、中国同済大学環境科学工程学院と研究・教育協定を締結している。